

[原著論文]

## 教養科目におけるプレゼンテーション授業の考察

高橋 啓太\*

## A Study of Presentation classes in the Liberal Arts

Keita TAKAHASHI\*

### Abstract

The purpose of this paper is a study of the presentation classes in the liberal arts. I have taught how to make a presentation in Japanese Phrasology II, a compulsory subject for second-year students in Kyushu Kyoritsu University. Based on my own class reporting, I want to think about teaching methods of presentation and ideas to promote active learning.

**KEY WORDS :** Liberal Arts, Presentation classes, Active Learning

## はじめに

現在、全国の多くの大学で文章作成を中心とした日本語運用能力の向上を目指す基礎教養科目が必修化されている。「文章表現法」「国語表現」「日本語表現」など講義名は様々であるが、授業の目的はほぼ同様である。

本学でも、前年度（平成27年度）から九州女子大学との共通科目として同種の講義を開講するに至っている。筆者は平成26年度に九州女子大学特別研究費による共同研究「総合共通科目「日本語表現法Ⅰ」における教授法および共通テキスト『日本語表現ワークブック』の開発研究」に、平成27年度には「総合共通科目「日本語表現法Ⅱ」における共通テキスト『日本語表現Ⅱワークブック』の開発研究」に共同研究者として参加し、当該授業の内容の検討とテキスト作成に携わった。以上の共同研究を経て、本学では平成27年度に経済・スポーツ両学部の1年次必修科目「日本語表現法Ⅰ」が開講され、本年度（平成28年度）から両学部の2年次必修科目「日本語表現法Ⅱ」も開講された。筆者は現在、経済学部の「日本語表現法Ⅰ」「日本語表現法Ⅱ」を担当している。

本年度より開講された「日本語表現法Ⅱ」の特徴は、プレゼンテーションに関わる内容を含んでいることである。日本語表現系の科目ではレポート・論文といった文章表現に関わる内容を教授することが多く、上記のように「文章表現法」という科目名を採用している大学も多い。筆者は本学赴任以前に、非常勤講師として2つの大学で日本語表現系の基礎教養科目を担当していたが、いずれの大学の授業でもプレゼンテーションに関わる内容は含まれていなかった。プレゼンテーションの関する教育については他大学での実践報告もあり、珍しいものではない<sup>1)</sup>。ただ、教養の必修科目でプレゼンテーションに関する内容を取り入れている大学はそう多くはないと思われる。

本稿では本年度4月に行った「日本語表現法Ⅱ」のプレゼンテーションに関する授業を振り返りながら、今後の授業に進め方について考察していきたい。

### 1. 「日本語表現法Ⅰ」の位置づけ

日本語表現系の教養科目は専ら初年次教育の科目として位置づけられているが、本学の「日本語表現法Ⅱ」は2年次の必修科目として位置づけられている。これはつまり、1年次の「日本語表現法Ⅰ」で日本語の基

礎学力を身に付け、2年次の「日本語表現法Ⅱ」でより発展的な形で日本語運用能力の習得を目指すという二段階で日本語教育を展開することを意味している。

本年度の「日本語表現法Ⅰ」シラバスを確認しよう。「授業概要」欄には、「この授業では、日本語を書くという作業を見つめ直し、日本語を書く能力の向上を目指します。具体的には、こうした場面で、自分の意見や考えを相手にきちんと伝える能力の習得を目標とします」とある。「授業内容」はFig 1のようになっている。終盤の回ではレポートの書き方についても授業を行うが、全体としては「漢字」「ことわざ・四字熟語・慣用句」「長い文を分ける」「文のねじれ」など、語彙や文法に関するいわゆる国語科的な単元が多く並んでおり、あくまでも基礎学力の習得を念頭に置いている科目であることがわかる。「授業の到達目標」としては「わかりやすい文章表現に必要な語彙・文法の知識を理解すること」「授業で得た知識を活かして、説得力のあるレポートが書けるようになること」が設定されている。

授業内容*	
1	オリエンテーション Eメール 予復修課題：教場で指示する。
2	漢字 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
3	ことわざ・四字熟語・慣用句 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
4	句読点と記号 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
5	接続表現の使い方 予復修課題：第一～四章の練習問題をよく復習して小テストに備えること。
6	見やすい表記 確認小テスト① 予復修課題：第一～四章の練習問題をよく復習しておくこと。
7	分かりやすい語順 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
8	情報と表現（事実と意見） 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
9	長い文を分ける 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
10	文のねじれ（悪文の例） 敬語 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
11	確認小テスト② 予復修課題：第五～九章の教材プリントを復習しておくこと。
12	レポートの書き方（1） レポートの文体 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
13	レポートの書き方（2） 文章と構成 予復修課題：返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
14	参考文献の書き方 予復修課題：第十～十四章の教材プリントをよく復習して小テストに備えること。
15	まとめのテスト 解説・まとめ 予復修課題：第十～十四章の教材プリントをよく復習しておくこと。

Fig 1. 日本語表現法Ⅰシラバス（授業内容）

次に、「日本語表現法Ⅱ」のシラバスを確認する。まず、「授業概要」欄の記述を全文引用する。

日本語表現法Ⅰで身に着けた日本語表現に関する

基礎的な知識を発展させて、より実践的な場面で、書くことと話すことに関する日本語運用能力の習得を目指す。／資料を検索してレポートや小論文を書く、レジュメを造（ママ）りプレゼンテーションを行うなど、大学生活で必要とされる技術について学ぶ。更に、エントリーシートや様々な文書の書き方、会話、電話等での話し方など、日本語運用に関する社会人基礎力の習得を目指す。

「日本語表現法Ⅰ」とは異なり、日本語運用能力が必要となる具体的な場面を想定した内容となっていることがわかる。現在、大学教育では学生の能動的な学修、すなわちアクティブ・ラーニングが要請されている<sup>1)</sup>。「日本語表現法Ⅱ」においても、「社会人基礎力の習得」のために話す・書く両方面におけるアクティブ・ラーニングをいかに展開していくかが重要な課題となる。特に、プレゼンテーションに関する授業は学生の能動性なくしては成立しない。

授業内容*	
1	オリエンテーション 資料の検索—インターネット・図書館の使い方 予復修課題： 教上で指示する
2	レジュメの書き方 予復修課題： 返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
3	プレゼンテーションを行う。 予復修課題： 返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
4	レポートの作成1—よいレポートとは— 予復修課題： 返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
5	レポートの作成2—レポートの内容と体裁— 予復修課題： 第1～4章の練習問題をよく復習して小テストに備えること。
6	小論文の作成1—よい小論文とは— 確認小テスト① 予復修課題： 第1～4章の練習問題をよく復習しておくこと。
7	小論文の作成2—問題提起と結論— 予復修課題： 返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
8	小論文の作成3—意見提示— 予復修課題： 返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
9	小論文の作成4—展開— 予復修課題： 返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
10	エントリーシートを書く 予復修課題： 第5～9章の練習問題をよく復習して小テストに備えること。
11	会話中での敬語の使い方 確認小テスト② 予復修課題： 第5～9章の練習問題をよく復習しておくこと。
12	電話の対応 予復修課題： 返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
13	文書の書き方1—勧誘・依頼・応諾・断り— 予復修課題： 返却されたプリントをよく読んで理解しておくこと。
14	文書の書き方2—感謝・謝罪・祝賀— 予復修課題： 返却されたプリントをよく復習してまとめのテストに備えること。
15	まとめのテスト 解説・まとめ 予復修課題： 返却されたプリントをよく復習しておくこと。

Fig 2. 日本語表現法Ⅱシラバス（授業内容）

毎回の「授業内容」は Fig 2 の通りである。各回の授業に際して、本年度は毎回プリントを配布している。このプリントは前年度の九州女子大学との共同研究「総合共通科目「日本語表現法Ⅱ」における共通テキスト『日本語表現Ⅱワークブック』の開発研究」で

作成したワークブック<sup>2)</sup> のデータをプリントアウトしたものである。このワークブックは『日本語表現法Ⅱ』の授業計画に沿った解説と課題から成っており、共同研究に参加した二大学の教員が分担執筆している。ただ、本年度は開講初年度ということもあり、プリントの形で配布して授業を行い、解説内容や課題に問題点がないか確認することになっている。本年度中に修正を加えて、次年度からは印刷製本したワークブックで授業を行う予定である。前年度から開講された「日本語表現法Ⅰ」でも同様の方法を採用しており、前年度はプリント、本年度は製本したワークブックで授業を行っている。

さて、上記の授業スケジュールのうち、プレゼンテーションに関わるのは第2回「レジュメの書き方」、第3回「プレゼンテーションを行う」であり、4月中に授業は終えた。次節以降、当該回の授業について振り返ってみたい。

## 2. プレゼンテーション授業の内容 (1)

第2回授業「レジュメの書き方」の目的は、発表レジュメの作り方を学ぶことである。ワークブックの原型となる配布プリントでは、レジュメに記載する内容を「基本資料や参考資料の引用の部分」「発表者自身の感想・意見等を記した部分」の二つに大別している。

さらに、レジュメ作成までの流れを「①報告の基本資料（論文・書籍）を読む」「②基本資料（論文・書籍）の問題点をピックアップする」「③参考文献（その他の参照資料）を集める」「④集めた参考文献（その他の参照資料）を読んで検討する」「⑤レジュメを作る」の順に説明している。レジュメのテンプレートも載せている（Fig 3）。レジュメというものが発表資料であってレポート（文章）ではないということを視覚的に理解してもらうためには十分であろうが、発表題目・タイトルがない、見出しが2つしかないなどいささか簡略化しすぎている感もあり、これまでレジュメを作成したことのない学生にとっては何をどのように書いていけばよいのかわかりにくい点もあると思われる。そこで、レポート・論文の書き方を解説した井下（2015）<sup>3)</sup> にあったレジュメの例（Fig 4）のPDFファイルを「発表レジュメ例」と題して本学シラバスオンラインの「日本語表現法Ⅱ」ページにアップロードし、学生がいつでも閲覧できるようにした。具体的な発表例を挙げているので、学生にとってより参考になるレジュメの例となっている。

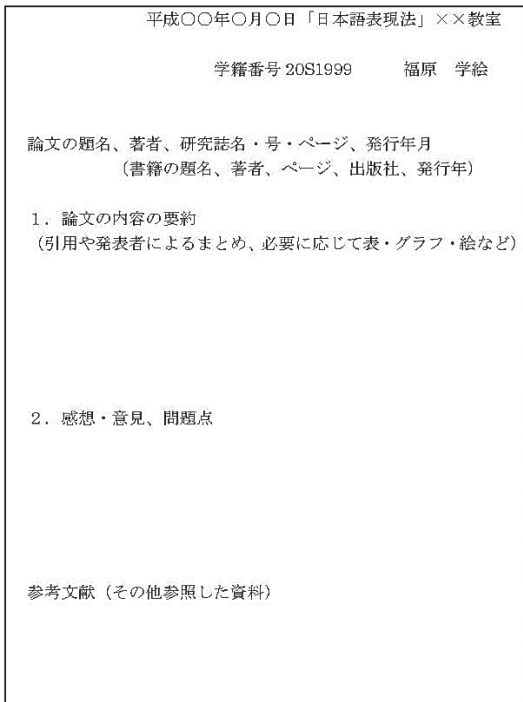


Fig 3. 『日本語表現Ⅱワークブック』第2章 (レジюме書式例)

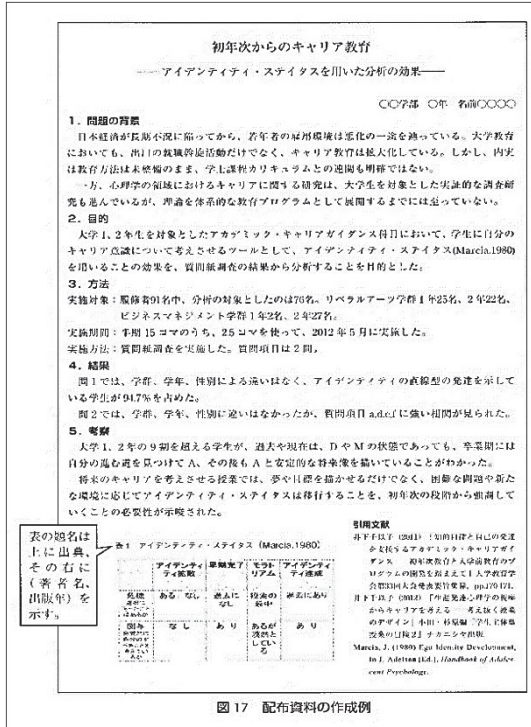


Fig 4. 井下 (2015) 掲載のレジюме例, p.117

前期の時点では、第2章の課題として、各担当教員がテーマを設定してレジюмеを作成させる【練習問題】を設けていた<sup>2</sup> (Fig 5)。「日本語表現法Ⅱ」の中で

プレゼンテーションに関する授業は計2回しかできないという都合上、PowerPointやWordで本格的なレジюмеを作成させることは難しい。そのため、授業に際してはレジюмеそのものの完成度よりも、学生が問題意識を持って読めるような資料を用意することを意識した。

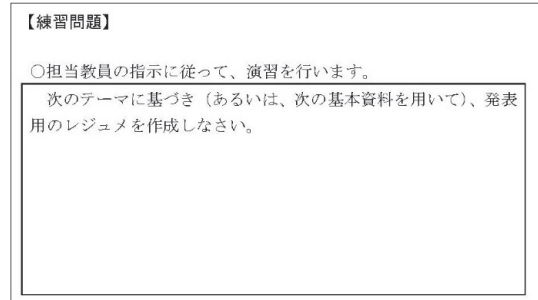


Fig 5. 『日本語表現Ⅱワークブック』第2章【練習問題】

時間的な制約や難易度、興味関心を引きそうな話題などを考慮して資料としたのは、スポーツジャーナリスト玉木正之の『毎日新聞』掲載のコラム<sup>4)</sup> (玉木 (2014)) である。玉木はこのコラムで箱根駅伝の問題点として、①〈関東の大学しか参加できないため、優秀な高校生ランナーが関東の大学への進学を希望して「地方大学との格差が生じている」こと〉、②〈メディアは「正月の風物詩」とあおり〉、③〈過酷なレースであるため、怪我で前途有望なランナーの将来を閉ざしてしまうこと〉、④〈男子だけが参加する「女性差別的・非スポーツ的な大会ともいえる」こと〉を挙げている。スポーツの盛んな本学の学生にとって近しい話題である一方、ジェンダーの問題や首都圏と地方との格差、メディア報道のあり方など複数の視点からの指摘がなされている。いずれも時事問題や社会問題を考えるうえでも必要な視点であり、様々な論点が見出せるのではないかと考え、このコラムのコピーを資料として配付した。

授業ではこのコラムを読み、内容の要約と論点の抽出を行った。興味を持った学生が多いようで、精読して玉木が提起している問題を把握することができた学生がほとんどであった。授業の最後に、次回 (第3回) までに手書きの簡易型レジюмеを作成するように指示し、そのレジюмеに基づいてプレゼンテーションをしてもらう旨を伝えた。

レジюмеを回収したのは第3回授業でプレゼンテーションを終えた後であったが、先に述べておくと、内容的に水準以上のレジюмеを作成できた学生は少なかった。中には、箱根駅伝の歴史や毎年の視聴率を調査

してデータを記したのもあったが、コラムを要約し、読んでみての感想を述べているだけで、玉木の挙げる箱根駅伝の問題点に対する分析・考察を行うまでには至っていないレジユメがほとんどであった。1週間という期間で掘り下げた議論を展開することは、本学学生にとっては難しいと思われる。

### 3. プレゼンテーション授業の内容 (2)

第3回授業の目的は、第2回授業の宿題である手書きの簡易型レジユメに基づいてプレゼンテーションを行うことである。ただ、1クラスあたりの履修者が平均30名ほど(平成28年度前期担当分)では、全員がプレゼンテーションを行うことは不可能である。繰り返すように、レジユメ作成・プレゼンテーションの授業は第2,3回の計2回しかない。数人の学生に発表してもらおうという選択もないわけではないが、それでは数人の学生のみが能動的に学修するだけで、他の学生は何もしないまま終わってしまう。

そこで、第3回授業ではグループワークという形でアクティブ・ラーニングを実践することにした。まず、4,5名のグループを作り、そのグループごとに5分のプレゼンテーションをするように伝えた。もちろん、宿題として各自が作成した手書きのレジユメの内容は十人十色である。そのため、プレゼンテーションを行う前にグループごとの打ち合わせの時間を設け、各自のレジユメから良いと思える分析・考察を見極めて発表内容をまとめるように指示を出した。各グループで概ね活発な議論と打ち合わせが行われていた。

打ち合わせ終了後は、グループごとのプレゼンテーションである。実際に発表する学生は1人でよいとしたが、グループ全員を前方に立たせた。手書きのレジユメ、しかもグループごとの発表内容は授業内で決めるため、聴き手にレジユメが配布されるわけではないままのプレゼンテーションとなってしまった点は本意であった。また、声量や姿勢など立ち振る舞いに関する注意喚起が不足しており、聞きにくいプレゼンテーションが少なくなかった。また、発表内容については、レジユメに関して先に述べたようにあくまでも感想を述べるにとどまっているグループが多かった。

もうひとつの反省点は、質疑応答がうまくいかなかったことである。聴き手の側は手元にレジユメがないため、発表内容に対する具体的な質問がしにくかったことは想像に難くない。どのクラスでも沈黙が長く続いたため、仕方なくこちらから指名して質問や感想を

述べさせる形になってしまった。この点については、発表内容に関する生産的な質問を期待するよりも、プレゼンテーションの仕方に対する評価を考えている。

実際、声量や姿勢、話し方について感想を聞くとすぐに答えが返ってくることが多かった。個々の学生の学力や理解度の差に関わらない質問であるためであろう。とはいえ、この場合でも学生が漠然とした感想を述べるだけになってしまう可能性が高い。あらかじめチェックポイントを具体的に提示して、プレゼンテーションを聴く側にも相応の準備態勢を整えさせる必要があるだろう。佐藤(2010)<sup>5)</sup>は以下の Fig 6-9のようにプレゼンテーションの評価ポイントを細分化した評価シートを作成しており、学生相互のプレゼンテーション評価を考えるうえで非常に参考になる<sup>3)</sup>。口頭での質疑応答という形ではなくなるが、このような評価シートで評価を可視化することで、発表した側も自分のプレゼンテーションを反省的に振り返ることができるはずである。

No. 29  
プレゼンテーション評価シートA

①採点に際して注目されるのは……

発表の内容をよく準備したと認められるか?	(周到な準備)
自分達独自のアイデアや意見を盛り込んでいるか?	(内容の独自性)
論旨が簡潔に表現されていて解りやすいか?	(簡潔明瞭な論旨)
論旨が十分に説得力を持っていると認められるか?	(妥当性・説得力)
発表内容に知的なユーモアが感じられたか?	(知的ユーモア)

※自分の証を基準にして、他の班の発表を採点してください。良い点、改善点を一つずつあげてください。

発表順	班の番号	(点数のところに丸を付けてください)				
1.	班	-2	-1	0	+1	+2
	良い点	_____				
	改善点	_____				
2.	班	-2	-1	0	+1	+2
	良い点	_____				
	改善点	_____				
3.	班	-2	-1	0	+1	+2
	良い点	_____				
	改善点	_____				
4.	班	-2	-1	0	+1	+2
	良い点	_____				
	改善点	_____				
5.	班	-2	1	0	+1	+2
	良い点	_____				
	改善点	_____				
6.	班	-2	-1	0	+1	+2
	良い点	_____				
	改善点	_____				

あなたの班の番号 \_\_\_\_\_ 学級番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

Fig 6. 評価シートA, 佐藤編 (2010), p.135

No. 30  
プレゼンテーション評価シートB

	改善の必要あり (C)	もう少し (B)	よくできました (A)
声量	発表全体を通して、教室全体に声が届かず、端では内容がよく聞き取れない。	教室全体に声が届いているが、時々、内容が聞き取れないことがある。	教室全体に声が届いており、最初から最後まで、内容がよく聞き取れる。
視線	発表全体を通して、聴衆を見ていないことが多い。	発表中に、聴衆を見ていないことが時々ある。	発表全体を通して、聴衆を見ている。
内容	わかりやすい順序で内容が構成されておらず、聞き手が理解しにくい部分がある。ポイントも不明瞭である。	内容の順序については、改善の余地が若干あり、聞き手が理解しにくい部分がある。ポイントもやや不明瞭である。	わかりやすい順序で内容が構成されており、聞き手が理解しやすい。ポイントも強調されている。
熱意	やる気が表現されていない。淡々と発表をこなしているように見える。	やる気がないわけではないが、人を動かすほどの熱意には表現されていない。	やる気、人を動かす熱意も十分表現されている。
グループワーク	メンバー間でのコミュニケーションがとれておらず一人に任せきりにしている、もしくは一人が勝手に発表を進めているように見える。	メンバー間でのコミュニケーションがまあまあとれており、協力して発表を進めているように見える。発表に対する熱意が感じられないメンバーがいる。	メンバー間でのコミュニケーションが十分にとれており、協力して発表を進めているように見える。発表に対するメンバー全員の熱意が感じられる。
質疑応答	質問を正確に理解していないために、応答が的確でない。応答が攻撃的であり、質問者や聞き手に不愉快な思いをさせている。	質問を正確に理解しているが、応答が的確でない。応答は攻撃を誘ったものになっており、やりとりが建設的である。	質問を正確に理解しており、応答が的確である。応答は攻撃を誘ったものになっており、やりとりが建設的である。
発表時間	発表時間は規定時間を過ぎた。もしくは大幅に早い時間で終了した。	発表時間は、規定時間内であったが、若干早い時間で終了した。	発表時間は、規定時間内であり、ギリギリまで有効に時間を使っていた。

発表した班の番号  
あなたの紙の番号 \_\_\_\_\_ 学籍番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

Fig 7. 評価シートB, 佐藤編 (2010), p.136

No. 32  
プレゼンテーション評価シートD

このシートは、各グループに皆さんの意見をフィードバックし、自分達の学習の成果の確認と皆さんの質問に答えるために使用します。発表グループの数だけ、このシートを提出してください。

グループ番号 \_\_\_\_\_ グループ名 \_\_\_\_\_ 発表タイトル \_\_\_\_\_

評価者 (=あなた)の学籍番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

- 発表の内容について、おもしろいと思ったこと・興味を感じたことを書いてください。

- 発表の内容について、よくわからなかったこと、次回教えてほしいことがあれば書いてください。

- 発表グループが伝えたいことがあなたによく伝わったかどうかを評価してください。

よく伝わった	まあまあ	あまり伝わらなかった	伝わらなかった

- ①資料の工夫、②発表方法の工夫、③コミュニケーションの工夫、④その他の工夫、の観点から、良かった点やここを工夫すればさらに良くなると思われる点を書いてください。

Fig 9. 評価シートD, 佐藤編 (2010), p.138

No. 31  
プレゼンテーション評価シートC

(5=他者と比較して相当良い、4=まあ良い、3=普通、2=少し問題あり、1=相当問題あり)

エントリー番号 氏名	① 中話の構成	② 中話の内容	③ 重要ポイントの明確さ	④ 声の大きさ	⑤ 話す速度	⑥ 声の抑揚	⑦ 質問の取り方	⑧ 相手の反応	⑨ 相手への向き方	⑩ 自身語り・相手語り	低い点コメント	改善点コメント
エントリー No.1 { }												
エントリー No.2 { }												
エントリー No.3 { }												
エントリー No.4 { }												
エントリー No.5 { }												
エントリー No.6 { }												
エントリー No.7 { }												

※①話の構成=順番良く内容が述べられていたか述べられていたか、理解しやすい流れになっていたか？  
※②話の内容=内容が興味を持ってもらえるものであったか、十分に調べられている感じだったが、「なるほど」と思わせるような内容だったか？  
※③重要ポイントの明確さ=重要ポイントをゆっくり大きな声で繰り返し主張していたか、重要である事を強調するコメントがあったか？  
※④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の取り方=学習者が内容を理解しやすいように、意味の切れ目で区切りがあったりして、ダラダラと話し続けていなかったか？

Fig 8. 評価シートC, 佐藤編 (2010), p.137

### おわりに

以上、本年度前期に行った「日本語表現法Ⅱ」の授業報告を基に、教養科目におけるプレゼンテーション教育のあり方について考察してきた。以下、プレゼンテーション授業に有益であると思われる工夫の方法を三つ挙げておきたい。

第一に、学生が興味を持って向き合える基本資料の用意である。プレゼンテーションは基本資料の読解、問題の設定、分析・考察、結論の提示という一連の作業の結果を報告するものである。卒業論文ゼミのように各自が興味のあるテーマを設定してプレゼンテーションを行う場合はともかく、必修科目の中でプレゼンテーションをさせることは容易なことではない。まずは、学生が興味を持って読みそうな題材が必要である。興味を持っていない資料であれば、問題点を見出そうという気にもならないであろう。

第二に、グループワークの導入である。「日本語表現法Ⅱ」ではプレゼンテーションに割ける授業回数と人数的な問題があって、グループ単位でのプレゼンテーションを実施した。苦肉の策であったが、発表内容を決めるという共通の目的に向かって学生同士がコミュニケーションを交わし合うことは、アクティブ・ラ

ーニングの実践であるといえる。

第三に、プレゼンテーション後の質疑応答に関する工夫である。聴き手側にレジюмеがなかったことも原因であろうが、議論の中身についての質問は少なかった。発表内容を理解していたとしても、わざわざ質問はしないという姿勢の学生がいることも考えられる。そこで、前節で述べたように、評価シートを配布してプレゼンテーションそのものに関するチェックをさせる方法は有意義であろう。この方法であれば、レジюмеの有無や学力や理解度は関係なく、プレゼンテーションを批評することが可能になる。また、プレゼンテーションを集中して聴くようになる効果も期待できる。

「日本語表現法Ⅱ」では、プレゼンテーションに関する授業は2回しかない。発表内容を充実させることが重要なのは当然であるが、学生が分析・考察に費やせる時間は乏しい。また、必修科目で履修者が多いため、発表内容について細かく指導することは物理的に極めて困難である。したがって、各自の発表内容の良し悪しに固執するのではなく、グループワークやプレゼンテーションの相互批評を取り入れることが、学生の能動的な学修を促す上でも生産的であると思われる。

## 注

- 1 中央教育審議会（2012）：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）。  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf), 平成28年6月14日入手。
- 2 本年度後期より、【練習問題】を記述式の問題に差し替えた。本稿の内容が、あくまでも前期授業に基づいていることを断っておく。
- 3 井下（2014）は、佐藤（2010）のp.136, 137（図7, 8）を参考にした評価シートとルーブリックシートを作成している（pp.188-189）。

## 参考文献

- 1) 渡部淳／獲得型教育研究会編（2015）：教育プレゼンテーション—目的・技法・実践，旬報社。
- 2) 荻原桂子，他（2016）：九州共立大学・九州女子大学日本語領域（編），日本語表現Ⅱワークブック。
- 3) 井下千以子（2014）：思考を鍛えるレポート・論文作成法，第2版，慶應義塾大学出版会。
- 4) 玉木正之（2014）：時評・点描 箱根駅伝スポーツにあらず，毎日新聞，2014年12月27日付朝刊。

- 5) 佐藤浩章（2010）：佐藤浩章（編），大学教員のための授業方法とデザイン，玉川大学出版部。

Received date 2016年6月2日